

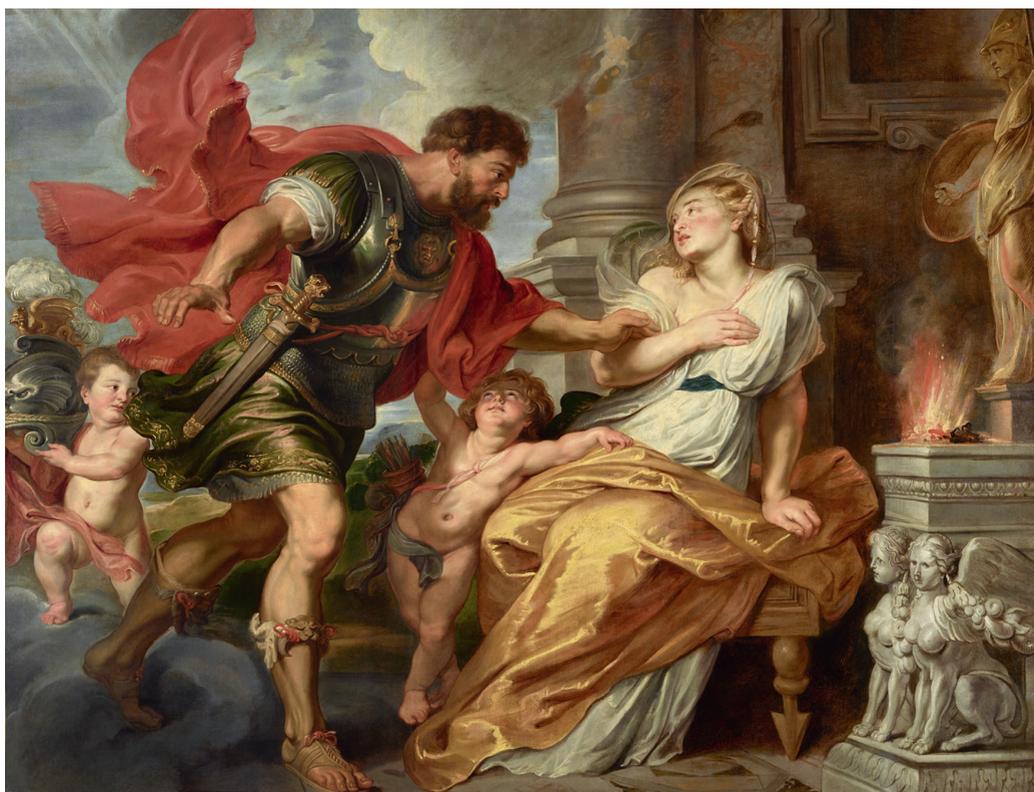
ZEPHYROS

ゼフェロス No.76

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

2018年8月20日発行

ISSN1342-8071



ルーベンス展 —バロックの誕生

RUBENS and the Birth of the Baroque

会期：2018年10月16日（火）～2019年1月20日（日） 企画展示室

企画展「ルーベンス展—バロックの誕生」



《クララ・セレーナ・ルーベンスの肖像》
1615-16年 油彩/板で裏打ちしたカンヴァス
ファドゥーツ/ウィーン、リヒテンシュタイン侯爵家コレクション
©LIECHTENSTEIN, The Princely Collections,
Vaduz-Vienna

本展は17世紀を代表する画家、ペーテル・パウル・ルーベンス（1577-1640）を紹介するものです。展示作品数は約70点、うち40点以上がこの画家による油彩・素描作品です（一部工房作や帰属作を含む）。これまで日本の展覧会で、これほどの数のルーベンス作品が一度に展示されたことはありませんでした。本展は厳選された作品により、この画家の芸術を理解する稀有な機会を提供することでしょう。

本展の特徴は、ルーベンスを「イタリアの画家」と見なすことです。普通、彼はフランドルの画家とされます。フランドルとは現在のベルギー、ルクセンブルク、フランス北部にまたがる地域のことで、当時はハプスブルク家スペイン領でした。実際、彼はフランドルの主要都市アントウェルペンで青年期を過ごして画家として修業し、後に工房を構えたのもこの町でした。しかし、その人生や芸術を詳らかに見るならば、イタリアやこの地の美術への並々ならぬ愛着を知ることになります。

ルーベンスは修業を終えた後イタリアへと旅立ち、約8年間をこの地（特にローマ）で活動しました。1608年秋、母危篤の報を受け、一時帰国のつもりで帰路を急いだのですが、結局イタリア再訪は叶いませんでした。もしローマに

戻っていたら、ルーベンスは「イタリアの」画家として後世に名を残したことでしょう。ただ、帰国後も彼はローマでなした模写を終生大事にして制作に役立て、手紙を書くときはほぼいつもイタリア語を用いました。心の中には常にこの南の国があったのです。

彼はイタリアで古代彫刻やルネサンスの芸術家たち、カラヴァッジョら同時代の画家たちの作品を熱心に研究し、その芸術を一変



《エリクトニオスを発見するケクロプスの娘たち》
1615-16年 油彩/カンヴァス
ファドゥーツ/ウィーン、リヒテンシュタイン侯爵家コレクション
©LIECHTENSTEIN. The Princely Collections,
Vaduz-Vienna



《バエトンの墜落》
1604/05年 油彩/カンヴァス
ワシントン、ナショナル・ギャラリー
Courtesy National Gallery of Art, Washington

させました。本展の章のひとつでは、ルーベンスによるイタリア美術の学習・研究の痕跡を示す作品の数々を展示します。同時に、ピエトロ・ダ・コルトーナ、ジャン・ロレンツォ・ベルニーニ、ルカ・ジョルダノら、次世代にイタリアで活躍した芸術家の作品をルーベンス作品と同じ空間に並べ、ルーベンスが盛期バロック美術の成立に果たした役割についても探ります。

本展は全体を7つの章に分け、ルーベンスの芸術を様々な側面から考察します。ルーベンスの名品を様々なコンテキストの中で鑑賞することで、その芸術をいわば立体的に把握していただければと考えています。ルーベンスは非常に幅の広い人で、画家であると同時に大工房を経営する企業家、洗練された教養人、そして外交官および宮廷人としての側面も持ち、心優しい家庭人でした。これほど多面性のある芸術家は、美術史を見渡してもそ

うはいません。そして彼の場合、作品のひとつひとつに活動の広がりを感じ取ることができるので。是非作品の前に立ち、その魅力に引き込まれてください。

(国立西洋美術館主任研究員 渡辺 晋輔)

表紙

《マルスとレア・シルウィア》

1616-17年 油彩/カンヴァス
ファドゥーツ/ウィーン、リヒテンシュタイン侯爵家コレクション
©LIECHTENSTEIN. The Princely Collections,
Vaduz-Vienna

ルーベンス展—バロックの誕生

一般 1,600円 (1,400円)

大学生 1,200円 (1,000円)

高校生 800円 (600円)

*中学生以下、心身に障害のある方および付添者1名は無料(入館の際に学生証・障害者手帳をご提示ください。)

* ()内は20名以上の団体料金

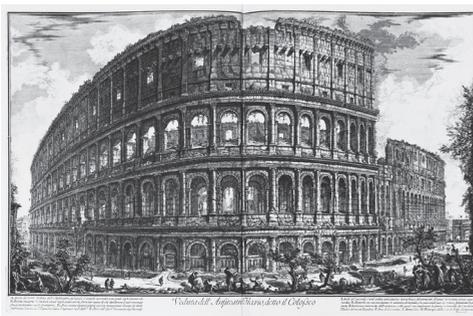
*本展の観覧券で常設展も併せてご覧いただけます。

掲載作品はすべてペーテル・パウル・ルーベンス作

会期：2018年10月16日（火）～2019年1月20日（日） 新館 版画素描展示室

小企画展「ローマの景観—そのイメージとメディアの変遷」

協力：東京都写真美術館



ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ
《コロッセウム》（『ローマの景観』より）
1761年 エッチング、エングレーヴィング
国立西洋美術館



カルヴァート・リチャード・ジョーンズ
《コロッセウム（大競技場）（第2景）》
1846年 カロタイプ
東京都写真美術館

古代からの歴史が幾層にも集積している街ローマに、昔も今も人々は憧憬を抱いてきました。しかし、ローマに関する確かな視覚イメージが広まるのは、三十年戦争などの戦乱が落ち着き、私的な旅行が増える17世紀以降のことです。当時、主にイギリスの貴族の子弟たちの多くが、教養教育の仕上げとして、ヨーロッパ文化の「揺り籠」であるローマを目指しました。いわゆるグランド・ツアーで見聞した知識や感動を、彼らそしてその家庭教師として同行した文化人は、故郷に持ち帰りたいと望みます。その欲望に応えたもののひとつが、ヴェネツィア生まれの建築家・画家ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージが1746年から47年頃に手がけた版画連作『ローマの景観』です。この版画集で彼は、古代遺跡やその後の時代の記念碑的建造物を壮麗に描き出す一方で、そこに当時の人々やその風俗を挿入し、理想と現実が渾然一体となったローマの景観を表出しました。そのイメージの拡がり

とインパクトの大きさは、19世紀に新たな複製メディアとして台頭してきた写真がローマの景観を写し出す際に、ピラネージの版画作品を参照していることからわかります。

本展は、当館が所蔵する油彩画・版画・工芸作品17点に、東京都写真美術館所蔵の写真作品18点を加えた、合計35点で構成されます。ピラネージ『ローマの景観』を手がかりに、17世紀以降今日にいたるまで、版画から写真へとイメージの伝播を担った複製メディアが変化していくことに注目しつつ、ローマのイメージがどのように変遷し、もしくは引き継がれていったのか、その事例をご覧ください。

（国立西洋美術館主任研究員 池田 祐子）

常設展（本展は常設展料金でご覧いただけます）

一般 500円（400円）

大学生 250円（200円）

*小・中学生・高校生および18歳未満、65歳以上、心身に障害のある方および付添者1名は無料
（入館の際に学生証または年齢の確認できるもの、障害者手帳をご提示ください。）

*（ ）内は20名以上の団体料金

クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》の寄贈を賜りました



図1 クロード・モネ 《睡蓮、柳の反映》 1916年 油彩/カンヴァス 国立西洋美術館
松方幸次郎氏御遺族より寄贈

このたび当館は松方家よりクロード・モネ《睡蓮、柳の反映》(油彩・カンヴァス、199.3×424.4cm(上部欠失)、1916年、図1)の寄贈を賜りました。

1921年、渡欧した松方幸次郎は画家モネのジヴェルニーの家を訪れ、アトリエに残されていた作品群から20点近くを購入します。そのなかには、モネ畢生の大作であるオランジュリー美術館の「睡蓮」の大装飾画の制作とも関連する2点の大画面の《睡蓮》があったことが初期の資料から知られていました。1点は、現在、当館の代表的所蔵品である《睡蓮》(200.5×201cm、図2)であり、もう1点はその約2倍の横寸を持つ《睡蓮》です。2点目の《睡蓮》はおそらく第二次世界大戦時の疎開期にひどく損傷したことから、戦後、接収松方コレクションの返還交渉においてフランス政府から日本政府へ引渡される作品リストには含まれず、長らく所在不明の作品とみなされてきました。

このもう一つの《睡蓮》は、戦時の接収作品を管理していたフランスの美術館局がかつて設置されていたルーヴル美術館で、近年カンヴァスの上半分が失われるという痛ましい状態で再発見されました。幸いにも画面左下にはモネのサインと「1916年」という年記が残されており(図3)、フランス側と日本側の記録の照合によってこれが松方コレクションの一部であったことも確認され、松方コレクションの最後にして最大の作品の帰還ともいべき今回の寄贈へといたしました。

現在、当館では、2019年6月に始まる開館60周年記念の松方コレクション展での展示を目指して本作品の修復作業を進めつつ、失われた全体像についてはデジタル技術で復元するプロジェクトも視野に入れた作品調査をおこなっています。知られざるもう一つの《睡蓮》の公開の日を楽しみにお待ちしております。ば幸いです。

図3



図2 クロード・モネ 《睡蓮》
1916年 油彩/カンヴァス
国立西洋美術館 松方コレクション

(国立西洋美術館主任研究員 陳岡 めぐみ)

EVENT イベント

ルーベンス展—バロックの誕生

展覧会に関連して次のプログラムを実施いたします。ぜひご参加ください。

● 講演会

日 時: **10月16日(火) 14:00~15:30** ※同時通訳付き

アンナ・ロ・ピアンコ(本展監修者・美術史家)

「ルーベンス—バロックの誕生」

日 時: **11月24日(土) 14:00~15:30**

幸福輝(美術史家・慶應義塾大学講師)

「ルーベンスとフランドル絵画におけるロマニズムの伝統」

日 時: **12月8日(土) 14:00~15:30**

渡辺晋輔(本展監修者・国立西洋美術館主任研究員)

「ルーベンスとイタリア美術」

会 場: 国立西洋美術館講堂(地下2階)

定 員: 各回先着 130 名(聴講無料。ただし、聴講券と本展の観覧券(半券可)が必要です)

参加方法: 当日 12:00 より、館内インフォメーションにて、本展の観覧券をお持ちの方お一人につき一枚聴講券を配付します。会場へは開演の 30 分前からご入場いただけます(整理番号順)。

● スライドトーク

展覧会のみどころや主な作品についてスライドを使って説明します。

日 時: **11月2日(金)、11月16日(金)、12月14日(金)、1月11日(金)**
各回**18:00 ~ (約30分)**

会 場: 国立西洋美術館講堂(地下2階)

解 説 者: 秋元優季(国立西洋美術館研究補佐員)

定 員: 各回先着130名(聴講無料。ただし、本展の観覧券(半券可)が必要です)

参加方法: 直接講堂にお越しください(開場時間は各日とも開演の 30 分前)。

※講演会、スライドトークのタイトル・内容等は変更となる場合があります。

最新の情報は国立西洋美術館ホームページまたはハローダイヤル(03-5777-8600)でご確認ください。

Museum Shop ミュージアムショップ

新商品

『飾りタイル』

3種類(睡蓮・陽を浴びるポプラ並木・
果物籠のある静物)

睡蓮14.8×14.8cm、他10.5×14.8cm/
陶器/日本製

各1,080円(税込み)

クロード・モネの《睡蓮》と《陽を浴びるポプラ並木》の2作品と、コルネリス・デ・ヘームの《果物籠のある静物》を、そのまま飾れるタイルにしました。約100℃の耐熱で、水洗いも可能ですので、キッチンまわりでも使っていただけます。



Café カフェすいれん

「ルーベンス展—バロックの誕生」
特別メニュー

期間 2018年10月16日(火)
～ 2019年1月20日(日)

●ベルギー食紀行「ワートルゾーイ」
(1日20食限定) 1,980円(税込み)



ルーベンスゆかりの地、ベルギーの代表的な料理である、ワートルゾーイ(チキンと野菜のクリーム煮)をお楽しみください。サラダ、パンまたはライス、デザート、ソフトドリンクのセットです。

チケット売場、館内施設(常設ミュージアムショップ、カフェすいれん)でSuica、各種クレジットカードがご利用いただけます。(ただし、一部除外品がございます。)詳細については、当館ホームページをご覧ください。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2018年8月～2019年1月

休館日 土・祝日

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
AUG 8	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
ミケランジェロと理想の身体 6月19日(火)～9月24日(月・休)(企画展示室) 西洋版画を視る—エングレーヴィング:デュランから生まれる精緻な世界 6月19日(火)～9月24日(月・休)(版画素描展示室)																															
SEP 9	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
ミケランジェロと理想の身体 6月19日(火)～9月24日(月・休)(企画展示室) 西洋版画を視る—エングレーヴィング:デュランから生まれる精緻な世界 6月19日(火)～9月24日(月・休)(版画素描展示室)																															
OCT 10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
ルーベンス展—バロックの誕生 10月16日(火)～2019年1月20日(日)(企画展示室) ローマの景観—そのイメージとメディアの変遷 10月16日(火)～2019年1月20日(日)(版画素描展示室)																															
NOV 11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
ルーベンス展—バロックの誕生 10月16日(火)～2019年1月20日(日)(企画展示室) ローマの景観—そのイメージとメディアの変遷 10月16日(火)～2019年1月20日(日)(版画素描展示室)																															
DEC 12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
ルーベンス展—バロックの誕生 10月16日(火)～2019年1月20日(日)(企画展示室) 年末年始休館 ローマの景観—そのイメージとメディアの変遷 10月16日(火)～2019年1月20日(日)(版画素描展示室) 12月28日(金)～1月1日(火・祝)																															
JAN 1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
ルーベンス展—バロックの誕生 10月16日(火)～2019年1月20日(日)(企画展示室) ローマの景観—そのイメージとメディアの変遷 10月16日(火)～2019年1月20日(日)(版画素描展示室) 全館休館 1月21日(月)～2月18日(月)																															

●全館休館・臨時開館のお知らせ

- *9月18日(火)、12月25日(火)は開館します。
- *2018年12月28日(金)～2019年1月1日(火・祝)は年末年始休館となります。
- *2019年1月21日(月)～2月18日(月)は館内整備のため全館休館します。

●常設展示

ロダンやブールデルの彫刻と中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画と20世紀初頭までの絵画を展示しています。
(展示作品については、館内インフォメーションでおたずねいただくか、当館ホームページをご覧ください。)

*展覧会名、会期、展示内容等は変更されることがあります。作品の保存・貸し出し等の状況により、掲載された作品をご覧いただけない場合がございます。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間…午前9時30分～午後5時30分
金曜・土曜日 午前9時30分～午後9時
6月22日～9月の金曜・土曜日、毎月最終金曜日は、午前9時30分～午後10時
常設展開室時間…午前9時30分～午後5時30分
金曜・土曜日 午前9時30分～午後8時(ただし、11月17日は午後5時30分まで)
6月22日～9月の金曜・土曜日、毎月最終金曜日は、午前9時30分～午後9時
企画展開室時間…午前9時30分～午後5時30分
ミケランジェロと理想の身体の金曜・土曜日は、午前9時30分～午後9時
ルーベンス展の金曜・土曜日は、午前9時30分～午後8時(ただし、11月17日は午後5時30分まで)
*入室は閉室の30分前まで
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)
*その他、臨時に休館することがあります。
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日、文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

*誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまだまの花々を運び春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第76号

編集・発行 国立西洋美術館/2018年8月20日(年4回発行)
協力 公益財団法人 西洋美術振興財団
印刷 (株)アイネット